

国立三瓶青少年交流の家キャンドルのつどい詳細要項

2025.4

国立三瓶青少年交流の家

国立三瓶青少年交流の家(以下、交流の家と記載)の研修をしてキャンドルのつどいを実施する団体は、次のことからを十分理解して、その目的達成に努めるものとする。

1 意義

キャンドルのつどいは、灯のもつ明るさとあたたかさを神秘的な雰囲気の中で見つめながら、自己の過去を省み、現在を知り、未来を考え、これからの人生の活力を生み出す機会にするとともに、参加者の友情を深める。

2 目的

- (1) 静かに自己を見つめ、自らを高めようとする意欲を培う。
- (2) 仲間との交歓を通じて、お互いの友情を深める。

3 実施の基本事項

(1) 期間

通年

(2) 時間

9:00~22:00

(3) 一斉実施可能人数

400人まで

(4) 対象

交流の家研修団体

(5) 運営

団体による自主運営を原則とするが、依頼があれば交流の家研修指導員(以下、研修指導員と記載)が行う。

(6) 指導者

実施団体内で指導者を定める。ただし、依頼があれば研修指導員が勤める。なお、指導料は研修指導員1人につき1回6,600円とする。

(7) 実施担当者

団体、キャンドルのつどいの実施担当者を1~2人決めておく。

(8) 安全管理

- ア 団体代表者及び実施担当者は、参加者の様子を掌握するとともに安全指導の徹底に努める。
- イ 火災発生時は、団体代表者の指揮の下で初期消火を行う。また、実施担当者は交流の家事務室(警備員)に緊急連絡する。また状況に応じて、参加者の避難、誘導を行う。

(9) 事前打合せ

ア 実施担当者は、事前に別紙「確認表」に貸出物品や実施方法等について記載の上、交流の家に事前提出する。

※研修指導員に指導依頼する団体は概ね実施の1週間前までに研修指導員と事前に打ち合わせの上、「確認表」を作成し、交流の家に提出する。

イ 実施担当者と会場係は当日の会場準備開始時刻の10分前に事務室に集合し、職員と共に「確認表」に沿って購入分品や貸出し希望物品の数を確認し、「まことの火のランプ」とその他、音響機材などの貸出し物品を受け取る。

※会場準備についての詳細は、「6 実施上の留意点」に記載。

ウ 研修指導員に指導依頼する場合は、実施の約30分前に事務室で実施担当者と指導員との最終打ち合わせを行う。

(10) 展開の形態

定型はないので実施団体の任意を原則とするが、研修指導員に指導を依頼する団体は、交流の家の展開方法(本キャンドルのつどい詳細要項)に沿って実施する。

4 実施要項

(1) 役割 (スタッフ)

ア 火の長 (1人)

→ つどいのまとめ役であり、主として団体の代表者が務める。
『はじめのことば』『おわりのことば』を各2分くらいで述べる。

イ 火の司 (1~2人)

→ 全体の司会・進行をする。研修指導員に依頼するときは、研修指導員が務める。

ウ 火の使 (1人)

→ 火の長のアシスタント、会場に火を運び点火などを行う。

エ 火の子 (3~6人)

→ 各団体や各班やクラスごとに1人。誓いのことばを一言ずつ述べたり分火をしたりする。

オ 会場係

→ 事前の準備・事後の整理を行う。

(2) 班編成

各団体や各班やクラスごとに編成する。3班から6班くらいの班数が望ましい。

(3) 会場

ア 体育館(400人程度まで) ※シートを敷いて実施する。

イ 講堂(200人程度まで)

ウ 剣道場(200人程度まで) ※シートを敷いて実施する。

(4) 貸し出し、購入、持参物品

交流の家が貸出できる物

- キャンドルセット(まことの火のランプ、火消し、ロウ落とし用竹べら、金属のバケツ、ポリバケツ)
- 中央燭台 ○大燭台(手持ち) ○小燭台(手持ち、置き)
- ワイヤレスアンプ(マイクつき) ○ワイヤレスマイク(体育館用、講堂用各2本)
- 中央燭台用シート(体育館、剣道場) ○CDデッキ
- 懐中電灯

交流の家で購入できる物

- 小ローソク(3号)(1組10本入り)
- 大ローソク(100号)(1回分)

※料金は年度によって変動するので、詳細は別紙「おすすめプログラム集」や「利用ガイドブック」参照。

団体が準備する物

- スタンプの小道具

※参加者用の小ローソク(3号)、中央燭台用及びスタッフ用の大ローソク(100号)を交流の家で購入しない場合は、持ち込みの必要があります。

5 展開

(1) 1部: 迎火のつどい…火を迎えるセレモニーとして厳粛に実施にする(約10分)。

| 順序 | 項目 | 内容 | 留意事項 |
|----|--------|--|--|
| 1 | 全員整列 | ○開始時間までに全員静かに入場し、班ごとに整列する。 (各班の火の子は班内の前列の中央に位置する。) ○火の使は 大ローソク に火をつけて火の長とともに指定された場所で待機する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・場内消灯する。 ・私語をやめ厳粛にする。 |
| 2 | 火の長入場 | ○参加者は火の司の合図(テープの場合もある。)で『遠き山に日は落ちて』を1回ハミングし、後1番を斉唱する。 ○火の長は、歌を合図に火の使の後に続き入場し、円内に左回りに1周し、所定の位置に立つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ※指導者によってはカットする場合がある。 ・火の長は、威厳をもって入場する。 ・火の使は、ローソクの火が消えないように手で囲いをして、ゆっくり歩く。 |
| 3 | 開会のことば | ○火の司が開会を宣言する。 | |

| 順序 | 項目 | 内容 | 留意事項 |
|----|---------|---|---|
| 4 | はじめのことば | <p>○火の使は火の長の前に出て、礼をして火の長に大ローソクを渡し、元の位置に立つ。</p> <p>○火の長は、点火された大ローソクを高くかざして参加者に示す。</p> <p>○火の長は、一歩前に出て大ローソクを高くかざして、つどいの意義や目的を厳かに2分程度話す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・威厳をもって行う。 ・ゆっくりと話す。 |
| 5 | 点火 | <p>○火の使は礼をして火の長から大ローソクを受取り、中央燭台の大ローソクに点火し、最後に立てて、元の位置に立つ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・火の司はアシストする。 ・静かに行う。 |
| 6 | むすびのことば | <p>○火の司は、1部のまとめのことばを述べる。</p> <p>○火の司は、2部の導入ことばを述べる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・徐々に点灯する。 |

(2) 2部：交歓のつどい…友情と親睦を深めるよう全員協力して楽しく実施する（約50分）。

| | |
|---|---------------------------------|
| 1 | ゲーム・ソング・フォークダンスなどを、火の司の進行で行う。 |
| 2 | 各班のスタンツ（出し物）を、出入りを含めて5分以内で披露する。 |
| 3 | 火の司のインタビューなどで、楽しい語らいにする。 |
| 4 | その他、臨機応変に火の司の進行で実施する。 |

(3) 3部：送火のつどい…火を送るセレモニーとして厳粛に実施する（約20分）。

| 順序 | 項目 | 内容 | 留意事項 |
|----|---------|---|---|
| 1 | 全員整列 | <p>○各自の燭台を持って、1部と同様の隊形に静かに整列する。</p> <p>○火の子は、大ローソクを持って1部と同様に位置する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・場内消灯する。 |
| 2 | 分火 | <p>○火の使は、中央燭台の最上段の大ローソクを残して他の大ローソクの火を消す。</p> <p>○火の使は、中央燭台最上段に残した火のついた大ローソクを火の長に渡し、予備の大ローソクを持って火の長の右に立つ。</p> <p>○火の子は小ローソクを持ち、火の司の合図で火の長の前に半円形に整列する。</p> <p>○火の長は、各火の子にファイヤーネームを言って分火する。</p> <p>○火の子は、分火された火を班に持ち帰り、後・両隣の物に分火する。</p> <p>○班員は、それぞれ周りの者に分火する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「○組（○班）には○○の火をさすけません。」 ・友情の火、勇気の火、知恵の火など。 ・火の司は、分火にふさわしい適当な言葉をのべる。 |
| 3 | 誓いのことば | <p>○各火の子は、一歩前に出て小ローソクを高くかざして、『誓いのことば』をのべる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・はっきり、ゆっくり述べる。（台本を見ながら言ってもよい） ・「○組（○班）には○○の火をいただきました。（誓いのことば中身）…することを誓います。○組（○班）代表〔フルネーム〕」 |
| 4 | 夜話 | <p>○火の司は、研修者にふさわしい詩の朗読や生きがい論について話す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・省略する場合もある。 |
| 5 | おわりのことば | <p>○火の長は、一歩前に出て大ローソクを高くかざし、つどいをしめくる内容の『おわりのことば』を厳かに2分程度話す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりと低い調子で話す。 |

| 順序 | 項目 | 内容 | 留意事項 |
|----|--------|---|---|
| 6 | 閉会のことば | ○火の司が閉会を宣言する。 | |
| 7 | 火の長退場 | ○火の長は、火の使の後に続き、円内を左回りに1周し退場する。 (人数によっては、参加者全員もしくは火の子と握手して退場することもある。) ○その場で静かに終わる。 | <ul style="list-style-type: none"> • 参加者は、火の長が通過したら、ローソクのしんの根元をつまんで火を消す。 • 参加者全員が静かに退場する場合もある。 • 場内点灯。 |

6 実施上の留意点

(1) 事前の「確認表」提出

実施担当者は、事前に別紙「確認表」に貸出物品や実施方法、小ローソクの本数、燭台の数について記載の上、交流の家に事前提出する。

※研修指導員に指導依頼する団体について特に以下の点に留意すること。

① 概ね実施の1週間前までに研修指導員と事前に打ち合わせの上、「確認表」を作成し、交流の家に提出する。

② **大ローソクは火の使の送火用1本と中央燭台用の9本。合計10本が最低限必要である。**

(2) 会場準備

研修団体の実施担当者及びスタッフは、交流の家に入所後、当日の16:00頃から以下の会場準備を行う

ア 事務室前教材庫から、大燭台、大ローソク、小燭台、火消し、竹ベラ、金属製バケツなど必要物品を搬出し、購入分の小ローソクを事務室で受け取る。

イ 会場中央に中央燭台を設置する。

※会場が体育館および剣道場で実施する場合は、シートを敷いた上に置く。

※悪天候によりタベのつどいを講堂や体育館で実施するときは、つどいの実施に支障が生じない場所に中央燭台を一時的に置いておき、実施前に会場中央に移動させる。

ウ 中央燭台に大ローソクを取り付けるとともに、小燭台に小ローソクを取り付ける。

(3) 実施後の片付け

※別紙「キャンドルのつどい準備と片付けの仕方について」参照。

ア 消火を確認し、床に垂れたロウがこびりついている場合は、竹ベラで削り取る。

イ 使用済みの小ローソクは事務室前教材庫の指定の場所に廃棄する。

ウ 大燭台、大ローソク、小燭台、火消し、竹ベラ、金属製バケツなどの事務室前教材庫から持ち出した備品を、元の場所に返却する。

(4) 購入物品の支払い方法

① 1回分の大ローソクと、小ローソクを交流の家で購入したときは、退所日の朝に交流の家事務室で請求書を発行する。

② 現金支払いを希望する団体は、上記の請求書を交流の家食堂に持参し、支払いをする。

(5) その他の留意点

① 1部、3部のセレモニアルファイヤー（儀式的火）は、厳粛な気持ちで実施する。

② 2部の交歓のつどいは、友情と親睦を深めるよう楽しく実施する。

③ スタンプなどの小道具は、事前に準備しておく。

④ 傍観者などがないよう、全員で協力して実施する。